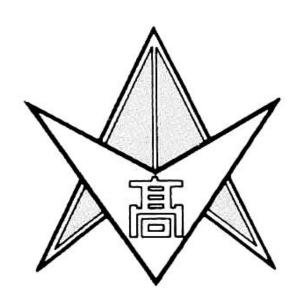


第60号 令和5年度



秋田県立大曲高等学校 あ ゆ み

第60号 目 次

【巻頭言】 「大曲高校スタンダード」のさらなる深化のために ·········	伊藤	成孝	··· 3
【研修記録】 英語科・校内研究授業記録 コミュニケーション英語 I ・・・・・・・・・	1\ \ 	学 插	1
保健体育科・校内研究授業記録 保健 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	菊 池	喜 晴	11
地歴公民科・実践的指導力習得研修(採用3年目)を終えて・・・・・・	髙 槗	賢右	••• 1 7
理科・実践的指導力習得研修(採用3年目)を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	山崎	真 悟	··· 2 2
理科・実践的指導力習得研修(採用2年目)を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	佐 川	恭 太	··· 2 7
芸術科・高等学校講師等研修を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今 川	萌	··· 3 4
【公套】			
【学科】 令和4年度 商業科の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・ 商業科	高 橋	晃	35

表紙題字 竹村 美範(天祐)

「大曲高校スタンダード」のさらなる深化のために

校長 伊藤成孝

本校で取り組んでいる「大曲高校スタンダード」については、昨年度、その理念や方策、成果と課題等を確認し、それに対する私見も述べたところである。

次に、年度当初に本年度の本校の重点目標として、「(生徒が)志を高く、主体的に考え取り組む態度を育む〜特に『大曲高校スタンダード』のさらなる深化と『デジタル探究コース』設置による探究的活動の推進」を提示した。

また、指導主事学校訪問における本年度の学校課題(重点指導課題)としては、「◎生徒に課題意識をもたせ、主体的な学びを育む授業づくり 1 主体的・対話的で深い学びに導くための、「本時の目標(ねらい)」の設定と授業構成・活動・ICT機器等の活用の工夫 2 学習内容の定着と次の学びに向かう「振り返り」の方法の工夫」を掲げた。

これを受けて実践していく取組としては、①本時の目標(ねらい=授業のゴール)を提示する意味をしっかりと理解し、授業内容だけでなく「目指す生徒の姿」をもっともっと練り上げ、1時間の学習活動のゴールである授業の目標を生徒がイメージしやすいように、また、生徒の主体的な学びを促すために、具体的に提示する。②生徒の理解を深めるために、主体的に考え、発言する場面を効果的に設定する。③学習内容の理解度や定着の度合いを把握するため、振り返りの場面をつくる。ことで共有した。

成果としては、①ほぼ全員が「○○を行うことで、△△ができるようにする。」という形式で具体的に目標を提示し、生徒がゴール(1時間の授業のねらい)をイメージしやすくなった。②生徒が授業のねらいを捉えて、グループの中で自分たちの考えを出し合い、それを全体の場で発表できるようになった。③授業の中で、ICT機器を意見の共有を図る手段として、効果的に活用した学習を進めることができた。また、各教科科目において、ICT機器を活用したポートフォリオの作成も進んだ。ことなどがあげられる。

今後の課題としては、①目標を提示するだけでなく、導入部分で本時の授業の流れ(授業展開)や見通しをわかりやすく提示するような工夫が必要である。②ICT機器の活用については、電子黒板の活用だけでは不十分であり、クロムブック等の積極的な活用をはかることが必要である。クロムブック等を活用した生徒の活動にあたっては、冒頭で生徒に具体的かつ丁寧な指示が必要である。③授業時、生徒がもっと元気よく活動ができるように、雰囲気作りの工夫をはかる必要がある。④「評価」については、授業内容の振り返りだけでなく、生徒自身による自己評価の記入により、生徒の学びの成長の把握に努めるような工夫が必要である。などがあげられる。

本校では本年度から、普通科における「デジタル探究コース」の活動を本格的に進めている。その柱となる「探究活動の深化」としては、いかに生徒が課題意識をもって主体的に考え取り組むかが大きなポイントとなる。具体的には、ICT機器の有効な活用により、地域社会の課題等を含む生徒の「なぜ」という素朴な疑問に端を発する課題解決をはかるべく、生徒の様々なアイデアを極力引き出しながら自分事として思考し活動することができるかである。

そして、生徒の目標実現のための具体的な手立てである「授業改善の深化」としては、生徒が「なぜ」 「どうして」と思考する場面を普段の授業の中にいかに取り入れていくかがカギであると考える。

いずれにしても、これを契機に本校の「大曲高校スタンダード」をあたりまえのものとしてしっかりと定着できることを期待している。

英語科「英語コミュニケーションI」学習指導案

実施日時:令和5年10月20日(金)5校時

場 所:11R教室 対 象:11R32名

指 導 者:小林 美穂 Matthew Wojtysiak

教 科 書: ELEMENT English

Communication I (啓林館)

1 単元名 Lesson 3 Contributing to Our Planet

2 単元の目標

- ・「私たちの惑星への貢献」をテーマに、メラティとイザベルの取り組みに関する英文を読んでその内容を理解するとともに、自分たちが環境保全のためにできることを考え、伝えることができる。
- ・関係代名詞、使役動詞の用法を理解し、活用することができる。
- 3 単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連
 - ・物語や説明文を読んで、概要や要点を把握できる。【1年後半 読むこと】
 - ・日常的な話題について、即興で賛否や簡単な感想を述べることができる。

【1年後半 話すこと(発表)】

4 単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
情報や考えを述べるために必要	本文の内容を理解し、概要や自	・グループ活動に積極的な態度
となる語彙や表現等を理解して	分の考えを英語で表現してい	で参加している。
いる。	る。	・自分の考えをわかりやすく伝
		えようとしている。

5 単元観

本単元では、バリ島の少女、メラティとイザベルが"Bye Bye Plastic Bags"という運動を立ち上げ、プラスチック汚染を止めるために活動していく様子が描かれている。十代の少女たちが身近な環境問題に気付き、様々な困難に直面しつつも自ら行動を起こし問題を解決してゆく様子は高校生にも共感できる内容である。本単元の学習を通じて、自分たちが環境保全のためにできることを考えさせ、生徒同士で考えを深める機会を作りたい。言語材料は関係代名詞と使役動詞が扱われており、実際に使用しながら用法を理解させたい。

6 生徒観

英語の学習に対して意欲的な生徒が多く、ペアワークやグループワークにも積極的に取り組んでいる。内容を理解することはおおむねできているが、中には英語に苦手意識をもち、理解に困難を感じている生徒もいる。学んだ語彙や文法を活用し、自分の考えを表現する場面を多く作っていきたい。

7 単元計画(総時間12時間)

主な言語活動等(◎本時の内容)	評価
・メラティとイザベルの取り組みに関する英文を読み、概要を捉える。	活動の観察
・本文のあらすじを相手にわかるように伝える。	ワークシート
◎自分たちが環境保全のためにできることについて考えを伝え合う。	

8 本時の学習(本時12時間目)

(1)目標

発表の活動を通して、環境問題について自分の意見を述べることができるようにする。

(2) 指導計画

過 程	学習活動	教師の支援及び留意点	評価
導 入 7 分	・ペアで環境問題についての意見を尋ね合う。	・I think 〜 because …という形を使って答えさせる。	
	本時の目標を確認する。		
	環境保全のための運動についてアイ て自分の意見を述べることができる	イディアを共有し、環境問題につい ちようになろう。	
展開 33 分	・グループ毎に発表の練習をする。 ・グループ毎に、自分たちが考えた環境保全のための運動について発表する。発表後は他グループの生徒または ALT からの質問またはコメントを受ける。	・発表の際に注意する点を伝える。 ・机間巡視をし、適宜アドバイスをする。 ・各グループの発表後、自分が最も良いと思った運動について意見を書くことを発表前に伝える。 ・発表を聞く生徒は必要に応じてメモを取る。	・聞き手に伝わる ように発表でき ている。(活動の 観察)(②③)
1		- 白八が具ま白いも田 - を海動につ	
まと	・本時の振り返りをする (自己評価シートの記入)	・自分が最も良いと思った運動について、理由も入れて英語で書く。	
め		・自分の発表で言いたかったが言え	
10 分		なかった表現を確認する。	

Na	ame	Room	Number
Μ	ake your own campaign!		
•	What is your campaign name?		
•	Who is starting this campaign? (the group member	er names)	
•	Why are you starting this campaign? (What is the	environment	al problem you are
	trying to solve?)		
•	When are you starting this campaign?		
•	Where are you doing this campaign? (Just in Akita	a? in Japan? a	Il over the world?)
•	What is your goal in this campaign?		
•	What will you do in your campaign?		
•	What do you hope will be the outcome of your ca	ampaign?	
_			
	Make a script for your presentation.Car	npaign:	

Name					Room	Number		
Lesson 3 Bye Bye Plastics								
	Goal: 環境保全のための運動についてアイディアを共有し、環境問題について自分の意見を述べるこ							
Z 1)	「できるようになろう。 							
○Listen	to the presentations and take	notes.						
Group	Campaign Name	Memo) (聞い	て印象に	残ったこと、	聞いてわからなかった	こ言	
		葉、も	っと知	りたいと	:思った点、原	惑想 等)		
1								
2								
3								
4								
7								
5								

OChoose one campaign that you t	think is the best.						
I think "			" is t	he b	est ca	ampa	nign
because							
○Evaluate yourself.							
,	A:よくできた	B:まずまずできた	C:あ	まり	でき	なか・	った
1. 声の大きさや視線に注意して、							
2. 他のグループの発表に対して、							
,,		. , -		Α	В	C]
3. 今回のプレゼンテーションでう	まく表現できなかっ	ったことや他のグルー					
り込みたくなったことを日本語で書		, <u>-</u>	, , , ,				
y control con the control of							

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	10日20日(金)	科目・単元	外国語・英語コミュニケーションI			
主題 (題材)	Contributing to Our Planet					
授業参観者	柴田孝博、近江豊、村井稔子、小松千明、渡部陽子、伊藤孝紘、小林朗子					
授業研究会参加者		、近江豊、村井穏	業者)、マシュー・ウオティジアック (子、小松千明 (司会)、渡部陽子、伊			

1 授業者の感想等

(小林美) これまで時間が足りなく、全体で意見をシェアする機会がなかった。今回はグループで発表をし、意見を全体で共有する活動を考えた。題材はバリ島の10代がおこした運動についてで、生徒達と同じ年代でも何かできることがあるんだということを理解し、様々な環境問題について考え、自分たちで解決策を考えさせた。クラスは自分が担任をする生徒達であるが、元気な生徒が多く、男女が交じって活動をすることができる。導入で行った活動は、前時までに練習した意見を述べる際の表現を復習した。プレゼンテーションの内容については、好きなテーマを考えると似通ったものが多くなりそうだったので、予め教師側でテーマを選定し、各グループに選ばせた。興味のない内容のものもあったかもしれないので、生徒は原稿作りに苦労していたようである。大きな間違い等についてはマシュー先生に添削していただいた。生徒は熱心に取り組んでおり、今日は朝から発表の練習をしていた。今日の授業はタイムマネジメントがうまくいかず、一番良いと思ったプレゼンを理由も合わせて述べる最後の活動ができなかったのが残念だ。

(マシュー)自信をもってコミュニケーション活動を行っていた。生徒は、発表を聞いてそれを英語でメモするなど、リスニング能力が高い。第2言語でジョークを言えるというのはコミュニケーションでとても重要なことだし、リラックスできていたということだと思う。発表については、時間を決めて行えば良かったと思う。

2 参観者の感想・意見

(柴田)生徒が楽しそうにやっているのが印象的だった。マシュー先生のフォローがとても良かった。発表内容については、もっと突っ込んだ話があれば良かった。今回のプレゼンでの気づきを次に生かせれば良いと思う。

(伊藤) 話しやすい授業の雰囲気ができていて、これまでの指導のたまものだと感じた。 聞いている生徒から良い質問が出ていたので、発表側でもう少し準備をして深い内容の解 答ができればなお良いと思う。

(近江) クラスの雰囲気が良く、生徒が楽しんでいる様子が伝わった。聞いている側も真 剣に耳を傾けていた。また、発表の中にユーモアもあって良かった。内容について今回は これで良い。

(村井)生徒が自発的に質問していた。発表者に対して全体で質問となると身構える生徒 もいると思うが、簡単な質問でもいいんだという雰囲気があって良かった。

(小松)発表の時に聞いている生徒が集中して良かった。内容について深いところまでいけなかったという話もあったが、これをきっかけに探究活動で深めていくことができるテーマ設定で良かったと思う。

(渡部)国語でも根拠を明確に述べるという指導を行っており、今回の理由を含めて意見を述べる形は短文でも意識して指導することは大事だと思った。学年が上がるにつれて発展させていける良い活動だと思った。

(小林朗)授業に行っているクラスだが、積極的に自分の言葉で説明起用とする生徒達である。話す側も聞く側も良い姿勢だった。発表の内容をしっかりと理解して質問していて感心した。先生方が褒めて生徒を伸ばしている印象を受けた。

3 今後の課題等

(大倉専門監)皆さんの指導に役立てていただければという視点で話をする。ウォームアップの活動のテーマが少し堅いように感じた。発表の練習でかなり盛り上がっていたので練習をウォームアップとしても良かった。また練習のあと説明が多くなってしまったので、練習の勢いのまま本番にすれば良いと思う。ワークシートのキャンペーンネームは予め印刷しておけば時間が節約できたのではないか。生徒はリスニングとライティングの能力が高いが、プレゼンには慣れていないなという印象。もう少し聞き手を意識したほうがいい、というフィードバックを最後にしてはどうか。語彙が環境問題に関するものなので難しい。難しい単語は発表の中で説明してもいいのでは。朝から練習するほど熱心に取り組んでいたということは、学習に良い効果があると思う。定期的に行ってほしい。私であれば、8グループを回すには1グループ5分しかないので、一対一でやる方法もある。合計7回発表することになるし、小集団なら質問も出やすいと思う。慣れてきたら徐々に大きい集団でやってみるとよい。点数をつけると盛り上がると思う。

保健体育科 (保健) 学習指導案

日 時 令和5年10月20日(金)6校時場 所 16R教室 対 象 16R(27名) 指導者 菊池 喜晴

1 単元

(1)現代社会と健康 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

⑦喫煙、飲酒と健康

2 単元目標

A 主体的に学習に取り組む態度

自他や社会の課題の解決方法及び適切な活用方法の選択に向けて話し合いや 意見交換などに主体的に取り組むことができる。

B 思考・判断・表現

課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考 し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。

C 知識・技能

自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、個人や社会への対策が必要である事を理解することができるようにする。

- 3 単元と生徒
- (1) 単元観

喫煙や飲酒は生活習慣病の要因となり、健康に影響があり、本人だけでなく、 家族、その周囲の人々、社会に対しても大きな影響を与える。また、「一気飲み」 などによる若者の事故が後を絶たないことからも正しい知識の普及、健全な価値 観の育成などは社会の急務である。

本単元において、生活習慣病の要因となる飲酒に関する様々な問題を、アルコールの薬理作用、生徒本人の体質などを踏まえて理解し、将来において生徒が健康を適切に管理していく能力を養わせたい。

(2) 生徒の実態

16R 商業科27名(男子14名、女子13名)

男女ともにおとなしいが、自分の意見をしっかり発言することができる。 生徒に活動の場を与えたり、日常生活と結びつけたりすることで、一人一人が考えを持って授業に取り組めるようにすることが必要である。

- (3) 指導観 本単元は日常生活に関わる分野を多く含んでおり、いかにして生徒自身の生活に結びつけて考えさせるかが重要であると考える。そのため、飲酒に関係する様々な問題を理解することとともに、自己の体質や状況を踏まえた対処の仕方を考えさせることで、適切な意志決定・行動選択についても身につけさせたい。
- 4 単元の指導計画 喫煙、飲酒と健康・・・・・・・・・・・・・・2 時間(本時 1/2) 薬物乱用と健康・・・・・・・・・・・・・1 時間
- 5 評価の規準

単元	A 主体的に学習に取り組	B 思考・判断・表現	C 知識・技能
	む態度		
現代社会と健康	・健康の保持増進に必要な	・健康を保持増進するため	・健康問題の解決に必要な
	事項に関して意欲的に学	の適切な意志決定や行動	知識を身につけている。
	習している。	選択ができる。	
単元の評価規準	喫煙、飲酒、薬物乱用と健	社会的なの問題を踏まえ、	生活習慣病の要因となり、
	康について、課題解決に向け	適切な意志決定・行動選択が	心身の健康を損ねることに
	て学習に主体的に取り組も	できる。	ついて、理解したことを言っ
	うとしている。		たり、書いたりしている。

6 本時のねらい ・飲酒による健康影響を理解し、適切な意志決定ができるようにする。

7 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	1. 本時の	・本時の目標を確認する。		
10	説明	飲酒をするとどのようにな	・飲酒による行動の変化等に	
分			気付かせる。	
	1. アルコ	・アルコールパッチテストを	・エタノール、絆創膏を準備	
展開	ールパッチ	実施する。	し、自分の上腕の内側に貼ら	
	テスト(1)		せる。	
35	2. アルコ	アルコールの作用について	・導入における生徒の発表と	
分	ールの作用	理解する。	関連させながら、アルコール	
	について		の薬理作用について、理 解さ	
			せる。	
	3. アルコ	・アルコールパッチテストの	・アルコールパッチテストの	
	ールパッチ	結果を確認する。	結果を確認させる。	
	テスト(2)		結果を踏まえ、どのような	
			健康影響があるか考え、発 表	
			させる。	
	4. アルコ	・アルコールの健康影響を理	・3の結果と関連させ、短時	
	ールの健康	解する。	間の多量飲酒、長期間の多量	
	影響につい		飲酒の健康影響を考え、 理解	
	て		させる。	
			・若年者、妊婦の飲酒による	
			健康影響についても触れる。	
	5. 飲酒を	・親戚のおじさんに飲酒を勧	・2人1組でロールプレイン	評価の観点:思考・判断
	勧められた	められた場合を例にロール	グを行わせ、生徒数人に発 表	評価方法:プリント
	時の対処	プレイングを行う。	させる。	・自己の体質等を考慮して
			・机間指導を行い、つまずい	適切な意志決定・行動選
			ている生徒へ指導を行う。	択ができる
			《つまずいている生徒に対す	A 評価 (良くできる) : 相
			る手立て》	手を尊重しつつ、明確な
			・何を話して良いか分からな	
			い生徒→プリントを参考に	
			ロールプレイングを実施さ	確な主張ができる。
			せる。	(努力を要する生徒への支
			・自分の主張がうまくできな	
		とはどのような社会か考え	い生徒→自分の体質などを	
		る。	踏まえて考えさせる。	させる。
整理	1. 本時の	・本時のまとめをする。	・本時の活動で分からなかっ	
5	まとめ		た部分があったか確認する。	
分	2. 次時の	・次時の学習内容を知る。	・次時に興味がもてるように	
	確認		する。	

飲酒と健康

令和5年10月20日(金)

1年 組 氏名

アルコールパッチテスト:アルコールを受け付ける体質か、そうでないかを判定

◎やり方

- 1. パッチテープ (脱脂綿) にアルコールをしみこませる
- 2.1を上腕の内側に貼る
- 3.7分後にはがし、はがした直後のガーゼの当たっていた部分の肌の色を見る
- 4. さらに5分後の肌の色を確認

check1:はがした直後に赤くなっていた

check2:はがした直後は赤くなっていなかったが、5分後に赤くなった

check3:肌の色に変化がない

①: A L D H 2 不活性型→お酒を飲めない体質
②: A L D H 2 低活性型→お酒に弱い体質
③: A L D H 2 活性型 →お酒に強い体質

※ALDH2(アセトアルデヒド脱水素酵素2型)とは

…アルコールの分解過程で発生するアセトアルデヒドを酢酸に分解する酵素

あなたの体質は 番

《余談》

筑波大学の原田勝二らは、ALDHのひとつ ALDH2 を作る遺伝子によって酒の強さが体質的に異なるとされることに注目して、全都道府県の 5255 人を対象に、酒に強いとされる遺伝子の型 NN 型を持つ人の割合を調査、順位づけた。その結果、NN 型の人は中部、近畿、北陸で少なく、東西に向かうにつれて増加、九州と東北で多くなる傾向があった。すなわち、秋田県が最多で 77%、鹿児島県と岩手県が 71%でこれに続き、最小は三重県の 40%、次に少ないのは愛知県の 41%であった。

お酒を飲める人は、飲めない人よりも 健康に問題が起こりにくいだろうか? ~ お酒を上手に断ろう ~

「いや〜、頑張った甲斐あったな! いがった、 し の前に練習だ。合格の祝いもかねて、まず一杯! さてどうする??	
 Dおじさん	
ほれ、一杯飲んでみれ!」	②あなた -
	「いや、
おじさん	
まず、そんたに堅でごど言わねでよ。」	④あなた 「いや、やっぱりダメだよ。」
おじさん	(いや、やつはがダメによ。)
	⑥あなた
なにい!!オメは俺の酒飲まれね一って	© 00.612
	[
なにい!!オメは俺の酒飲まれね一っていうのが!」	[
	!! 気持ちをごま かさ ない く、きちんと伝わる形で に向き合う

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	10日20日(金)	科目・単元	保健・現代社会と健康
主題(題 材)	(工) 喫煙、飲酒、	薬物乱用と健康	10. 飲酒と健康
授業参観者		清秀・山本 力・熊? 紀子	谷 尚・伊藤 淳・千葉 智子
授業研究会参加者		清秀・山本 力・熊2 紀子	谷 尚・伊藤 淳・千葉 智子

1 授業者の感想等

- ・ICTを上手に活用できれば生徒にもわかりやすい授業ができた。
- ・生徒の反応が良く、スムーズに授業展開ができた。
- ・時間を気にしすぎでアルコールに関して説明が不十分になってしまった。

2 参観者の感想・意見

- ・生徒の心をつかんで、生徒を最大限に生かせた授業だった。
- ・実験(パッチテスト)や話し合いがあり、活発的な授業展開で生徒にも理解しやすい 内容だった。
- ・実験・説明・ロールプリーイングを巧みに活用してまとめられていた授業だった。
- ただの知識の授業でなく、コミュニケーションスキルもありまとまった授業だった。
- ・昔と現在のアルコールに対する変化が分かる授業で勉強になった。
- 16Rは電子黒板を使用しづらい環境のため、教室の立地にあった授業あった。
- ・説明も長くなく、生徒の集中力が切れないほどよい時間で生徒があきない授業展開で あった。
- ・飲酒や喫煙だけでなくいろんな生活場面で活用できる意思決定・行動選択の重要性を 考えさせる授業だった。
- ・知識のない生徒が聞いても分かりやすく、生徒を引きつける授業であった。
- ・発表してくれた生徒に対しての「拍手」「ありがとうございました」などのねぎらいが あり生徒に肯定感をもたせる対応だった。
- ・16Rの生徒を引きつけ、活かす話術で飽きが来ず生徒も集中して授業に臨んでいた。
- ・休刊日の重要性を説明していたため、大人も考えさせられる授業だった。
- ・大脳の仕組みを説明したときに「一気飲み」の危険性をも少し説明があればより生徒 に危機感を持たせられた。

3 今後の課題等

・ I C T の活用法

大脳の図を電子黒板で映し出すなり、ちょっとした活用でも良い

・指導案に関して

「生きる力を育む高等学校保健体育の手引き」を参考にする

↓ 主に・・・

単元に「アルコール」を入れた場合、本時の目標・評価基準にも「アルコール」に 関連したものにする

まとまり単元を複数時間で行うため、その時間に合った評価をするため関連付けた評価にする

実践的指導力習得研修(採用3年目)を終えて

地理歴史・公民科 髙橋 賢右

【1】初めに

大曲高校に赴任して3年目、このことは秋田県の教員として採用されて3年目ということになる。担任として学年部も持ち上がり、様々な業務にも対応できるようになった気がしている。そうして中で、たくさんの先生方のご指導の下で本研修を実施し、再確認することや新しく学ぶことが多々あり、充実した1年間となった。本研修について、振り返ることとする。

【2】校内研修(一般研修)

校内研修(一般研修)については、昨年度の研修に引き続き、担任業務など様々なことを勉強させていただいた。特に、今年度から商業科の担任を務めさせてもらったこともあり、「商業科の担任としての知識や心構え」を教えてもらった。商業科に入学した生徒に対しては、やはり「商業科の強みを生かした進路指導」が大切であり、それに対応できる知識を担任として持つ必要がある。日々の担任業務を行いながら、こうしたことを勉強させていただく機会を得て、本当に感謝している。

また、今年度より導入された校務支援システムの使い方と機能については、業務効率化に寄与するものであり、研修として学ぶことができてよかった。

【3】校内研修(授業研修)

令和5年10月に行われた指導主事訪問に際して、公民科の「公共」で研究授業を担当させていただいた。人間の生き方として、正義や公正の観点から社会的事象への判断基準を涵養することを本時の目標とした。難しいテーマではあったものの、素晴らしい生徒たちの頑張りによって何とか授業を最後までやり遂げることができた。

その後の教科別協議会において、授業を参観いただいた先生方より忌憚のないご意見をいただき、とても勉強になった。やはり、主発問で生徒を授業に引き込むこと、生徒の思考を揺さぶること、この2つの精度が授業の出来を左右すると言っても過言ではない。そして、このことこそ「大曲スタンダード」で求められる生徒の育成につながるのだと、再認識することができた。

【4】終わりに

初任者研修に続いて採用2年目から始まった本研修も、無事に終えることができた。採用からの3年間で、教員としての心構えや様々な業務への取り組み方、生徒や保護者との接し方、授業づくりと教材研究など多くのことを学ぶことができた。今後は、研修で学んだことを生かしつつ、さらに教員として成長できるよう努力していきたい。

中国の春秋戦国時代の思想家とされる老子は、次のような名言を残している。ちなみに、老子の名言とされるが、その出典は定かではなく、「中国のことわざ」と紹介されることもある。

人に魚を与えれば一日で食べてしまうが、釣り方を教えれば一生食べていける

生徒に単に知識だけではなく、その知識の使い方を身に着けさせる、言い換えれば、生徒に「生きる力」を身に着けさせることが、我々、教員の使命である。そのためには、教員自らが学び続けなければならないのではないだろうか。決して頭でっかちではなく、学んだ内容に自分の経験を結び付け、自分の言葉で生徒に伝えられる教員となれるよう、今後も機会を見つけて、研修に取り組んでいきたい。

末筆になるが、本研修の実施にあたり、校長先生や教頭先生などたくさんの先生方にご指導をしていただいた。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いします。

公民科「公共」学習指導案

時 : 令和5年10月20日(金)5校時 日 場 : 2 教 所 3 R 室 クラ ス : 2 3 R 3 9 名 指 導 者 髙槗 賢右 : 教 諭 教 科 書 : 『高等学校 公共 私たちがひ らく未来・社会』(清水書院)

【1】単元名 第1編 公共の扉をひらく 第3章 公共的な空間における基本的原理 この単元は、高等学校学習指導要領に示された内容のうち、「2 内容」の「A 公共の 扉」、「(3) 公共的な空間における基本原理」の「イの (ア)」に該当する。

【2】単元の目標

(1) それぞれの思想家の思想について、関連性や差異などに着目しながら、理解することができる。

<知識及び技能>

- (3) よりよい社会の実現に向けて、積極的に学習に取り組みながら、現代の諸課を追求することができる。 <学びに向かう力、人間性等>

【3】単元と生徒

(1) 単元観

本単元は、大項目Aの最後の項目として設定されており、大項目B及び大項目Cの学習で扱う社会的事象等について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養うように留意しなければならない。

また、よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うこと、幸福、正義、公正といった価値が、よりよい社会の構築に大切だと気づかせることは、道徳教育とも関連する。そのため、道徳教育推進教師としての立場からも、公民的資質を育成していく上で、本単元の内容は重要であると考える。

(2) 生徒観

今回の授業クラスは、普通科文系クラスの23R(男12名、女27名)である。4月に行った課題レポートでは、「ニュースや新聞記事から興味をもったものを紹介し、自分の考えを書く」という課題であったが、スポーツや芸能の内容が多く、現代社会の様子に対する興味や関心は低かった。そうした生徒に対し、学習内容を通じて現代の諸課題に向き合えるよう、生徒同士の話し合いを適宜取り入れ、少しずつではあるが話し合いも活発になってきている。今回の授業においては、他者の考えを尊重しながらも、現代の諸課題に対する判断基準が持てるように心掛けたい。

(3) 指導観

本単元においては、多くの思想家たちの思想に触れながら、公共的な空間における基本原理について理解し、個人と社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現することができるような思考力、判断力、表現力等を身に着けることが求められる。

本時においては、アウシュヴィッツ収容所についての思考実験に取り組みながら、生徒同士が意見を共有しあい、学習内容と類似の判断を現代社会でも求められることを実感できるよう、適切な支援を行っていきたい。

【4】単元の指導計画(全8時間)

(1) 近代的人間像の誕生(1)	1 時間	(2) 近代的/	、間像の誕生(2)	1 時間		
(3) 国家社会と人間性(1)	1 時間	(4) 国家社会	ミと人間性 (2)	1 時間		
(5) 国家社会と人間性(3)	1 時間	(6) 公共性の)復権と他者についての思考	1 時間		
(7) 公正な社会と個人	1 時間	(8) 単元のす	ミとめ	1 時間 (本時	1/1)

【5】単元の評価規準

A:知識及び技能	B: 思考力、判断力、表現力等	C:主体的に学習に取り組む態度
それぞれの思想家の思想について、 関連性や差異などに着目しながら、 理解している。	公共的な空間では、他者に対して公平・公正な配慮を行うことが重要であることを、多面的・多角的に考察し、表現している。	よりよい社会の実現に向けて、積極的に学習に取り組みながら、現代の諸課を追求している。

【6】本時の計画

(1) 本時の目標 アウシュヴィッツ収容所についての思考実験を通して、他者と意見を共有しながら、正義や公正の観点から社会的事象への判断基準を涵養することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入 (10分)	①前時までの学習内容の復習を行い、本時が単元のまとめとなることを理解する。②参考文献からの抜粋部分を読み、アウシュヴィッツ収容所の様子について理解する。③本時の目標と課題を確認する。	・体調不良の生徒が出ない よう配慮するため、参考 文献の説明をする。	
	課題:あなたが毒ガスのボタンを押	す役割なら、どうし	ますか?
	④グーグルフォームに自分の考えを入力し、その理由 をプリントに記入する。	・グーグルフォームの結果 を生徒に提示して、クラ スの状況を共有する。	
展 開 (25分)	⑤グループを作り、他者と意見を共有しながら、グループとしての意見をジャムボードに記入する。	生徒の様子を評価するために、アドバイスを与えながら机間指導を行う。	C:グループで の活動に積極 的に参加し、他
	⑥各グループの意見を、発表する。	・全体で考えを共有できるように、ジャムボードを 電子黒板に表示する。	者と考えを共 有できる。(机 間指導)
)	⑦本時の課題と類似の場面に、今後の人生で巡り合うかもしれず、その際の判断基準は正義や公正の観点に基づいていることが必要だと理解する。	・正義や公正の判断基準で も、自分の命を粗末にし てはいけないことを踏ま えて、事例を紹介する。	
とめ	⑧本時の振り返りとして、内部告発の事例に対しての 自分の考えをグーグルフォームに入力し、その理由	グーグルフォームでの結果を提示して、授業前後	B:正義や公正 の観点の判断
(15分)	をプリントに記入する。	での考え方の変化を可視化する。	基準で、説明している。(プリ
	⑨次回の学習内容を確認する。	・新しい単元にスムーズに 入れるように予告する。	ント)

- (3) 目指す生徒像
- ・授業に意欲的に取り組み、他者の意見も参考にして、多面的・多角的に考察できる生徒
- ・思考実験などを通じて、正義や公正の観点に基づく判断基準を持つことができる生徒
- (4) 協議の視点
- 「生徒に課題意識をもたせ、主体的な学びを育む」ことができる、適切な内容の授業であったか。

【7】参考文献

・『恐怖のアウシュヴィッツー生き証人は語る』(永井清彦編、岩波書店、岩波ブックレット NO. 93、1987 年)

公共学習プリント

R 番氏名

	_
-	TW
	11216

アウシュヴィッツ収容所についての思考実験を通して、他者と意見を共有しながら、正義や公正の 観点から社会的事象への判断基準を涵養することができる。

=#	
=-	
=	760
	. AF JTS

あなたが毒ガスのボタンを押す役割なら、どうしますか?

毒ガスのボタンを	押す	押さない	(どちらかにOして下さい)
理由を具体的に書いて下さい			

他のグループの発表内容や大事だと感じたことをメモしよう

職場の上司の不正行為を	内部 告発 する	内部告発しない	(どちらかにOして下さい)
理由を具体的に書いて下さい			

今日の授業を振り返って

①今日の授業内容を理解することができましたか? A ・ B ・ C

②グループでの話し合いに進んで参加できましたか? A ・ B ・ C

③「本時の目標」を達成することはできましたか? A ・ B ・ C

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	10日20日(金)	科目・単元	公共 公共的な空間における基本原理
主題 (題材)	あなたが毒ガスのボタ	ソンを押す役割なら、	どうしますか?
授業参観者	岩谷宣行高校教育課指 高橋史 柴田ひろみ		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
授業研究会 参加者	岩谷宣行高校教育課指 高橋史 柴田ひろみ		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,

1 授業者の感想等

公共の科目の倫理分野のまとめとして、また道徳教育とも関連づけ、学習指導要領の中の正義や公正の観点から社会的事象への判断基準を涵養することを目標にした。押すか押さないかの判断をさせるときに、押さなくても命が危なくなることはないという情報をどのタイミングで生徒に提示すべきかを最後まで悩んだ。生徒の思考を揺さぶることをねらい、途中で提示した。

2 参観者の感想・意見

グーグルのクラスルームの使い方、ジャムボードの使い方、電子黒板の背景が黒で見やすい、リアルタイムでアンケートを集計するなど情報機器の使用の仕方が素晴らしかった。生徒も指示後すぐ動くなど普段の授業の様子が想像できた。「生と死」というかなり重いテーマを題材にする勇気と先生の声の大きさやトーンがテーマを重くしすぎない絶妙な効果があった。時間の管理も良かった。

ユダヤ教徒とドイツ人の関係など宗教や時代背景を把握させたり、押す・押さないで判断させるのではなく押した人の正義を考えさせたりすることより思考が深まったのではないか、ディベート方式ではどうだったかなどの意見があった。問いを単純化したことで焦点が絞られたという感想もあった。

押さなくても命が危なくなることはないという情報は最後で良かったのではないか、途中で伝えたことで、押さないに流れる人が多くなりすぎてしまったという意見が大半であった。

最後に職場の上司の不正行為を内部告発するか、いじめを告発するか、という身近な話題で振り返りをさせたことが素晴らしかったというものが多かった。特にいじめの告発の話題に生徒の空気が変わり、自分事として思考させることの重要性を感じた。

3 今後の課題等

重いテーマであるだけにいろいろな展開や分野の広がりの可能性が考えられる。

実践的指導力習得研修(採用3年目)を終えて

理科 山崎 真悟

【はじめに】

昨年度は採用2年目として本研修の前期を終えた。初めて担任業務にあたり、本校における分掌業務や生徒指導も含めて、新しく学ぶことの多い日々であった。さて、今年度は学年部も持ち上がり、本校での生活もずいぶん慣れた状態で研修の後期を実施した。後期は校内研修のみであったが、昨年に増して実りあるものとなった。ここでは、今年度の本研修を振り返り、総括するとともに、次年度以降への展望を記す。

【校内研修】

校内において、研究授業を含めた授業研修のみならず、部活動運営や生徒指導、保護者との連携について年間 20 時間の程度の研修を行った。特に部活動運営においては、管理職をはじめとして、自身の考え方を振り返り、今後へつながる学びを得た。特に印象に残ったことは「生徒に点線の矢印を見せる」ということである。1 から 10 まで全て教え込むのではなく、生徒が考えて主体的に活動できるように方向性を示すことの重要性を学んだ。実際の活動を振り返っても、生徒の言動や技術の向上に変容が認められ、その重要さを体感することとなった。これは部活動のみならず、生徒指導やその他の場面においても通じるものがあると考える。学校教育の中で、これまで受験学力(教科的に問題を解ける力)の育成を重視していたが、高校生活を経て、「世に出て通用する人」に育てるという根本を忘れてはならないと強く感じている。一方で、実際の授業においては、「大曲高校スタンダード」を通じた授業スタイルの確立に挑戦した。生徒の主体的かつ対話的な活動を補助する授業展開を工夫したが、昨年同様、発問の質を高めること(言い換えれば、どのような資質・能力を育むかを焦点化すること)が大きな課題であると感じた。

【総括および次年度以降の展望】

昨年度は本校に来て初めてのことばかりで日々忙しく過ごすうちに一年間が終わってしまった。その点では、今年度は様々な業務をわずかながら余裕をもって進められた。大きく技能が向上したと感じられるのは、部活動運営と進路指導である。昨年度に比べて学校研究に時間を割いた。その他、生徒の様子をよく観察すること、進路相談においては傾聴すること、集団への帰属意識を高めること、活動を通して個々の自己肯定感を高めること、保護者と連携して生徒理解の一助とすることなど、どれも大切なことではあるが、本当に大切なのだと実感する日々であった。毎日「こうすればよかった」と反省ばかりの日々ではあったが、周りの先生方や生徒に助けられて、成長することができた。次年度以降は、学年が上がった場合を考え、一層の進路指導力を向上させる必要があると感じる。普段から気になる進路動向はすぐにチェックする癖をつけ、先生方とのコミュニケーションをより綿密にしてこの力を高めたい。

授業においては、次年度以降焦点化された発問を目標としたい。理科・化学においては、学習を通して、身の回りの事物・現象への興味・関心を高めるとともに、科学的な思考力を育むことが求められているが、一つ一つの授業を大切に練り、「生徒にどんな力をつけさせたいか」をよく考えて授業改善に励みたい。

最後になるが、今年度の研修に関わっていただいた全ての先生方に謝意を表して締めくくりとしたい。 本当に、ありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

第2学年 理科 (化学) 学習指導案

実施日 2024年1月26日(金)2校時

会 場 化学実験室

クラス 21R

教科書 化学academia (実教出版)

授業者 山崎 真悟

1 単元名

2章物質の変化と平衡 1節化学反応と熱・光エネルギー 3へスの法則

2 単元の目標

- ①化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱、光の発生や 吸収となって現れることを理解させる。
- ②化学エネルギーの差を定量的に扱えることを理解させる。
- ③熱化学反応式について、エンタルピー変化をもとにたてることができる。
- ④実験を通して、ヘスの法則について理解させる。
- ⑤へスの法則をもとに、未知の反応エンタルピーを計算できるよう指導する。
- ⑥光の発生や吸収については、化学発光や光合成等を扱い、身の回りの現象 との関わりを理解させる。

3 指導に当たって

(1) 単元観

中学校では、「化学変化と熱」で、化学変化には熱の出入りが伴うことについて学習している。この単元では、エンタルピーという物理量を導入し、化学変化における熱の出入りを定量的に扱えることを理解させたい。また、総熱量は保存されるというへスの法則をもとにして、実験では測定困難な反応エンタルピーを計算によって求められるよう指導したい。

化学エネルギーの差は、熱のみならず光となって現れることもある。医療現場で用いられる化学発光やオゾン層の分解に関わる光化学反応など、身の回りで化学変化が熱や光となって現れることを実感させたい。

単元計画

- 2章 「物質の変化と平衡」
 - 1節 化学反応と熱・光エネルギー・・・10
 - ① エネルギーの変換と保存・・・・・1
 - ② 化学反応と熱エネルギー・・・・・3
 - ③ へスの法則・・・・・・・ 5 (本時 3/5)
 - ④ 化学反応と光エネルギー・・・・1

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
A	B	C
化学エネルギーの差が他のエネルギーとなって現れることを理解している。 ヘスの法則の検証実験を安全に行うことができる。	熱化学反応式を立てることができる。 ヘスの法則をもとに、未知の反応エンタルピーを計算することができる。 実験計画を立案できる。	化学反応とエネルギーについて、身の回りの現象と結びつけて理解しようとする。

(2) 生徒観

まずは個人でじっくり取り組む姿勢が見られるクラスである。自分の考えが固まると他者と協働して課題解決に向かう姿も見られ、中には中心的な役割を担って集団全体の課題解決に尽力する生徒もいる。

一方で、個人で考える時間が長くなると、周囲を気にしてなかなか集団と しての活動に踏み切れない雰囲気も見られる。課題と達成の見通しを明確に することで、スムーズに学習活動が行えるよう留意したい。

(3) 指導観

熱や光の発生・吸収は身の回りで頻繁に起こる現象である。まずはそのことに目を向けさせ、それが物質の持つ化学エネルギーの際であることに気づかせたい。また、化学基礎で学習した化学反応式と量的関係の考え方が熱化学反応式においても応用できることに触れ、反応エンタルピーの計算力を高めたい。

へスの法則の検証実験においては、特に立案に力を入れ、自分たちで計画 する力をつけさせたい。

4 本時の実際

(1)本時の目標

立案した実験計画をもとに、ヘスの法則を検証するための実験を遂行することができる。

(2)展開

(2)展開							
過程	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法等)				
導入	実験手順について、班内で確認する。(グループ)		実験の手順を理解しているか。 【A】				
5分	発問:へスの法則は本当に成り立つのか?						
	学習課題①:立案した計画	通りに実験を行い、温度変化を記録	する。				
展開① 25 分	実験を開始する。(グループ)	試薬の扱いについて、実験上の 注意を伝える。 実験中は机間指導を行い、安全 に実験が行われるよう適宜指導 する。	グループで協働して実験を遂行 しているか。【A】				
	学習課題②:実験結果を google スプレッドシートに入力し、温度変化のグラフを作成する。						
展開② 10 分	タブレット端末を用いて、 温度変化をスプレッドシー トに入力し、グラフを作成 する。(グループ⇒全体)	班内およびクラス内で話し合い が進むよう促す。	測定した温度変化を適切にグラ フ化できるか。 【B】				
	実験器具の片付けを行う。	実験で使用した溶液の処理について説明する。					
	できあがったグラフを班ご とに比較する。(全体)	班ごとの違いや、反応経路の違いがグラフのどの部分に現れているか、考えさせる。					
整理 10 分	まとめ:ヘスの法則はどうや て考える必要がある。	Pら正しそうだが、結果のグラフの解釈	Rや単位の変換(℃⇒kJ)につい				
	振り返りを行う。(個人)	新たに発生した課題について、 次時解決する旨を伝え、期待感 を持たせる。					

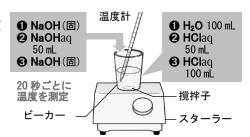
3 6 教科書 p.10)1	ヘスの法則を検証しよう					
		天気					
月	目	気温	°C	R	番	名前	

● 実験に関連する知識の確認 次の用語を説明せよ。	知識・技能
○へスの法則:	—— A · B · C
● 実験 ポイント	

- **▶目的▶▶▶ NaOH**(固)の水への溶解, **NaOH**(固)と塩酸の中和反応, **NaOH** aq と塩酸の中和反応より, ヘスの法則がなりたつことを調べる。
- ▶準備 ▶▶▶ □ビーカー □メスシリンダー(100 mL) □温度計 □ガラス棒 □ストップウォッチ □薬包皿(薬包紙) □水酸化ナトリウム(粒状) □1.0 mol/L 塩酸 □1.0 mol/L 水酸化ナトリウム水溶液 □純水

▶操作▶▶▶

① | NaOH(固)の溶解エンタルピー ΔH_1 [kJ/mol]の測定 純水 100 mL をビーカーに入れ,このビーカーに固 体の NaOH 4.0 g 程度を加えて,撹拌しながら 20 秒 ごとに溶液の温度 T_1 [$\mathbb C$] を測定する。ここで生じ た NaOH 水溶液の濃度を 1.0 mol/L とする。



② | NaOHaq と塩酸の中和エンタルピー ΔH_2 [kJ/mol]の測定

1.0 mol/L の塩酸 50 mL をビーカーに入れ、このビーカーに操作 $oldsymbol{1}$ で得られた 1.0 mol/L NaOHaq 50 mL を塩酸とほぼ同じ温度になるまで冷やしてから加える。ビーカー内の溶液を撹拌しながら 20 秒ごとに溶液の温度 T。[$oldsymbol{C}$] を測定する。

1.0 mol/L の塩酸 100 mL をビーカーに入れ,このビーカーに固体の NaOH 4.0 g 程度を入れて, 撹拌しながら 20 秒ごとに溶液の温度 T_3 [$^{\circ}$ C] を測定する。

▶結果▶▶▶

時間〔秒〕	0	20	40	60	80	100	120	140	160	180
T_{i} (°C)										
<i>T</i> ₂ (℃)										
<i>T</i> ₃ (°C)										

▶考察▶▶▶

1. 実験結果より、縦軸を温度 [$^{\infty}$]、横軸を時間 [秒] として、反応時間 と温度の関係をグラフで記せ。

 思考・判断・表現

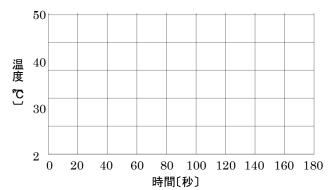
 A ・ B ・ C

2. 各実験での上昇した温度

 ΔT [°C] をグラフより求めよ。

**	COI	ر ب	//	0 / 1100 000	
L					

3. NaOH(固)の物質量を 0.10 mol, NaOH aq の濃度を 1.0 mol/L, HCl aq の濃度を 1.0 mol/L, 純水・HCl aq・NaOH aq の密度および操作後の水溶液の比熱を 1.0 g/mL, 4.2 J



 $(/g \cdot \mathbb{C})$ として、 $\Delta H_1 \sim \Delta H_3$ [kJ/mol] を求めよ。

	上昇温度 Δ Τ	発熱量 =水溶液の体積×密度×4.2×Δ <i>T</i>	反応	5エンタルピー
0	К	J	ΔH_1	kJ/mol
0	К	J	ΔH_2	kJ/mol
③	К	J	ΔH_3	kJ/mol

	Ø	K	J	ΔH_3	kJ/mol
_	1. 4	$\Delta H_1 \sim \Delta H_3$ [kJ/mol] \sharp	り,どのようなことがなりたつといえ	.るか。	
Ī					

● 実験をふり返って

主体的な態度 A・B・C

○学習の理	解度						○粘り強く	取り約	且めたか	`			
できなかった_	1	2	3	4	5	できた	できなかった_	1	2	3	4	5	できた
	解を深	ピめたい	アレや	御味を	もった	こと か	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ						
○さらに埋	解を深	きめたい	ことや	興味を	もった	ことな	۲						

実践的指導力習得研修(採用2年目)を終えて

理科 佐川 恭太

昨年度、本校で採用となり、教諭生活がスタートした。初任研では授業の研究をはじめとして、分掌業務や教員としての心構え、立ち居振る舞いなど多くのことを学んだ。今年度は2年目ということで、いよいよ担任業務にあたり、新しく学ぶことの多い日々であった。ここでは、今年度校内外にて行った実践的指導力習得研修を振り返りたい。

【校外研修】

① 5月18日 総合教育センター

○保護者対応と連携 ○学校組織の一員として ○学校教育目標に基づいた学習指導①

保護者対応に関しては、傾聴と事実確認が重要であると感じた。日ごろから保護者への情報の発信と共有を図り、早めに信頼関係を築きたい。学校組織の一員として、どのように取り組むべきかについては、思い付きの取り組みではなく、目標をもとにマネジメントしていく重要性を感じた。研修後、本研修の内容を参考にし、ホームルームの目標を明確にした上で学級経営を進めていくことができた。学校教育目標に基づいた学習指導については、学校教育目標から授業を考えることができるようになった。普段の授業では「共同性」に重きを置いているが、「個別最適」にも意識を向けて工夫したいと感じた。

② 8月23日 総合教育センター

○学校教育目標に基づいた学習指導②

6月23日に所属校にて授業を行い、授業の様子を動画で撮影した。研修では、グループごとに撮影した動画を見た後に、付箋紙ワークショップにて意見交換を行った。ほかの受講者の授業を見たり、自分の授業に対して意見をいただいたりすることで、自分の授業に自信をもてたり、改善点を見つけたりすることができた。改めて授業参観および研究協議の効果と重要性を感じた。

【校内研修】

校内においては、研究授業を含めた授業研修のみならず、学級運営や生徒指導、保護者との連携について年間 20 時間弱の研修を行った。特に学級運営においては、担任初年度ということもあり、年間の最重点項目として業務にあたった。生徒対応や保護者連携については、管理職をはじめとして、他の先生方と密に情報を共有し検討を重ねることができ、日々運営能力の向上を感じた。授業においては、昨年度に引き続き、日々授業の分析を行い、改善に努めた。前述した校外研修での授業や指導主事訪問での研究授業等を通じて、自分の授業の長所や改善点をより明確にすることができた。

【総 括】

教諭2年目を終えてみて、昨年度に引き続き、学校業務や授業について自分の力を高めることができた良い一年になったと感じている。また、講師時代に比べて責任ある仕事が回ってくることが多くなり、重荷に感じることは増えたが、それよりも自分の裁量でできることが増えたことで仕事がしやすくなり、以前よりも生き生きと働けているような気がする。また、少しずつではあるものの「経験」が蓄積してきているのか、自分の考えや取り組みについて自信が持てるようになってきた。まだまだ勉強不足で至らない点が多いが、引き続き研修に力を入れて教員としての力量を高めていきたい。

15R 生物基礎 学習指導案

令和5年6月23日(金)6校時 大曲高等学校 理科 佐川 恭太

1 単元名 遺伝情報の複製と分配

2 単元の目標

- (1) 遺伝情報と DNA についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。【知識・技能】
- (2) 遺伝情報と DNA について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きについての特徴を見いだして表現する。 【思考・判断・表現】
- (3) 遺伝情報と DNA に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】
- 3 指導計画(全体10時間 本時4/10)
- (1) DNA の構造(2時間) (2) DNA の抽出(1時間) (3) 遺伝情報の複製(1時間)
- (4) 遺伝情報の分配(1時間) (5) 遺伝情報とタンパク質(0.5時間)
- (6) タンパク質の合成(2時間) (7) 分化した細胞の遺伝子発現(0.5時間)
- (8) 遺伝情報と遺伝子、ゲノム(2時間)

4 本時の学習

(1) 本時のねらい メセルソンとスタールが行った実験の結果から複製様式を考察し、そのしくみについて説明させることで、半保存的複製のしくみを理解させる。

協議の視点「学校教育目標を達成するための共通実践事項を踏まえた授業が展開されていたか」

本年度の重点目標 1 (2) 他者価値観を尊重できる人間の育成

学習場面	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準
導入	・前時までの学習内容について確認する。・本時の課題と目標を確認する。	○本時の目標を意識させるよう、ワークシートの空欄に本時の目標を書かせる。○本時の活動の注意点を説明し、ルールやねらいを認識させる。
	本時の目標:実験結果から DNA の複製のしかた 明することができる。	について考察し、半保存的複製のしくみを説
展開	・課題達成に向けて活動する。 課題 教科書 P74~77 を読み,下の問題をと き,説明問題の説明を考える。今まで一度 もサインをもらったことのないクラスメー トに説明し,納得してもらえたらサインを もらう。それぞれ 2 人以上からサインをも らうこと。	○生徒どうしのやりとりが活発になるよう, 生徒の活動を注意深く見取り,必要な声かけをする。
まとめ	・半保存的複製のしくみを文章にまとめる。 ・本時の活動を振り返る。	◇塩基の相補性に注目しながら、半保存的複製のしくみについて説明できる。 【Google フォーム】

15R 生物基礎 学習指導案

日 時 令和5年10月20日(金)5校時

場所15R教室対象15R31名指導者佐川 恭太

教科書 生物基礎(数研出版)

1 単元名 体内環境の維持のしくみ

2 単元の目標

- (1)神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達、体内環境の維持の仕組みの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調 節の特徴を見いだして表現する。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 神経系と内分泌系による調節に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元と生徒

(1) 単元について

本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、ヒトの体の調節についての観察、実験などを通して、神経系と内分泌系による調節及び免疫について理解させるとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することを主なねらいとしている。特に、体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させるとともに、体内環境の維持を自律神経と関連付け、ホルモンと自律神経の働きによって体内環境が維持されていることを理解させることをねらいとする。

(2) 生徒について (男子12名 女子19名 計31名)

中学校では、動物が外界の刺激に適切に反応している仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けて学習している。また、循環系とその働き、血液の成分とその働きの概要及び腎臓と肝臓の働きの概要についても学習している。既習事項については、全体で確認すると思い出せる生徒が大多数である。また、授業に主体的に参加し目標を達成しようする生徒が多く、他者と協働して問題解決を図る場面になると男女問わず積極的に対話する姿が見られる。一方で、他者と積極的に関わることに対する苦手意識があり、自分からクラスメートに関わりを持とうとしたり自分の意見をはっきりと言えなかったりする生徒もいる。考える時間と自分の意見を述べる時間を十分に確保し、生徒同士が意見を述べやすい環境や雰囲気を用意しつつ、積極的な生徒とそうでない生徒がうまく関わりを持てるような工夫をしながら、血糖濃度の調節とホルモンの働きとの関係について理解を深めさせる。

(3) 指導について

体内環境の維持の仕組みに関しては、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いださせるために、食事の前後における血糖濃度と血中のインスリン濃度の経時的変化を示す資料に基づいて、血糖濃度の変化とインスリン濃度の変化を比較し分析させ、血糖濃度とインスリンの働きとの関係について気付かせる。さらに、グルカゴンについても血中濃度が食事の前後でどのように変化するのかを推測させたり、糖尿病が発症する原因について考察したりすることで血糖濃度の調節とホルモンの働きとの関係について理解を深めさせる。

4 指導計画(全体11時間 本時9/11)

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価基準
	・踏み台昇降運動時における心拍数の変				・実験の操作や記録などの技能を身に付
1	化を測定する実験の技能を身に付ける。	0			けている。
_	・資料(図)を読み取り、交感神経と副				・資料を読み取り、交感神経と副交感神
2	交感神経の働きについて理解する。	0			経の働きについて理解している。
	・内分泌系が働く仕組みについて理解す				・内分泌系が働く仕組みについて理解し
3	る。	0			ている。
4	・フィードバック調節について理解す				・フィードバック調節について理解して
4	る。	0			いる。
5	・体温の調節の仕組みについて理解す	0			・体温の調節の仕組みについて理解して
υ	る。				いる。
6	・水分量と塩分濃度の調節の仕組みにつ		0		・水分量と塩分濃度の調節の仕組みにつ
0	いて説明する。		O		いて説明している。
	・「情報の伝達」について、学習したこと				・学習中に分からなかったことや新たに
	をまとめる。				疑問に思ったことをどのように解決しよ
	・「情報の伝達」の学習中に分からなかっ				うとしたかを表現している。[記述分析]
7	たことや新たに疑問に思ったことをどの			0	・次の項目での学習に向けて、自分の学
'	ように解決しようとしたかを表現する。				習方法についての課題をどのように改善
	・次の項目での学習に向けて、自分の学				していくかを表現している。[記述分析]
	習方法についての課題をどのように改善				
	していくかを表現する。				
	・資料を読み取り、血糖濃度の調節と肝				・血糖濃度の調節と肝臓との関係性につ
	臓との関係性について理解する。	0			いて理解している。 [記述分析]
8, 9	・資料を読み取り、血糖濃度の調節の仕				・血糖濃度の調節の仕組みについて説明
	組みについて説明する。		0		している。[記述分析]
	・「体内環境の維持の仕組み」について、				・学習中に分からなかったことや新たに
	学習したことをまとめる。				疑問に思ったことをどのように解決しよ
	・「体内環境の維持の仕組み」の学習中に				うとしたかを表現している。[記述分析]
	分からなかったことや新たに疑問に思っ				・次の単元での学習に向けて、自分の学
10	たことをどのように解決しようとしたか			0	習方法についての課題をどのように改善
	を表現する。				していくかを表現している。[記述分析]
	・次の単元での学習に向けて、自分の学				
	習方法についての課題をどのように改善				
	していくかを表現する。				
l l	していてがなれずる。				
11	・ペーパーテスト	0	0		・知識を習得、活用している。

知:知識・技能 思:思考・判断・表現 主:主体的に学習に取り組む態度

5 本時の学習

- (1) 本時のねらい ・クラスメートとの対話を通じて、血糖濃度の調節に肝臓がどのように関係しているの か理解できるようにする。
 - ・クラスメートとの対話を通じて、血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経を関連付けながら説明できるようにする。

学	習場面	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準				
前	導入	・血糖と血糖濃度とは何かを確認する。 ・食前食後における血糖濃度およびホルモン(グルカゴン、インスリン)濃度の経時変化のグラフを見ながら、血糖濃度調節とホルモンとの関連について考える。 ・本時と次時の二時間分の目標を確認する。 目標:①血糖濃度の調節に肝臓がどのよう	○体内環境の維持にホルモンや自律神経が関与していることに気づかせる。こ関与しているのか理解する。				
時		②血糖濃度調節のしくみを、ホルモン	ンと自律神経を関連付けながら説明できる。 				
	展開	・目標達成に向けて活動する。	○生徒の動きを見ながら、生徒の活動が効率的 かつ効果的となるよう必要な支援(全体への 声かけ等)をする。				
	まとめ	・本時の活動を振り返る。 (振り返りシート)	○本時の活動についての感想を述べながら、次時の授業までにすべきことと、次時の授業で何をすべきかについて考えさせる。				
	導入	・前時の活動を振り返る。・目標を再確認し、本時の活動で自分のやるべきことを確認する。					
本	展開	・目標達成のため、プリントの問題に取り組む。 ・資料を読む、自分で考える、クラスメートと対話するなど、目標達成のための活動を自分で選択して行う。	○目標達成に向けて望ましい行動をとれるよ う必要な支援(全体への声かけ等)をする。				
時	まとめ	・小テストの問題を解く。 ・本時の活動を振り返る。	◇血糖濃度の調節に肝臓がどのように関与しているのか理解している。【小テスト】◇血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経を関連付けながら説明できる。【小テスト】○クラスメートの行動をいくつか紹介しながら、目標達成に向けて行動できていたかについて考えさせる。				

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	10日20日(金)	科目・単元	生物基礎・体内環境の維持のしくみ				
主題(題材)	血糖濃度の調節						
授業参観者	渋谷 知、佐々木 学、藤田 綾子、照井 幹夫、三浦 史聖、斎藤 竜二、 三浦 俊喜、柴田 美来、山崎 真悟、今川 萌						
授業研究会参加者			史聖、斎藤 竜二、三浦 俊喜、				

1 授業者の感想等

血糖濃度の調節については、進度上の都合。普段通りの授業スタイルである。単元によるが、 今回は肝臓の働きと血糖濃度の調節を説明するには、2時間続きが必要だと感じた。

協議の視点は「主体的・対話的で深い学びとなるような『授業構成』になっていたか」とあるが、様々な意見を頂戴したい。

スタイルの1つを提示するつもりで授業した。普段からやっているので、生徒たちはすぐ動ける。まして自分のクラスなので、生徒も「こう動くのだな」と分かって動いていたと思う。

2 参観者の感想・意見

(佐々木学) 新鮮、今時の授業で参考になった。生徒たちが活発であったし、臆することなく相手を見つけて主体的・対話的な授業であった。4月からの取り組みの成果だと感心した。ねらいの設定や活動の方針は電子黒板を用いていた。友達を見つけては披露しあい、深い学びであった。補助教材も適したものだったと感じる。積極的な生徒もそうではない生徒も学び合っていた。自分の考えをまとめる時間などの区切りがあればなお良かった洋に感じる。

(藤田) 難しい単元であるが、小テストはいつも行うのか? (⇒相手に説明し、3人にサインをもらったら OK ということもある。)

図のルートと説明がリンクするとなお良いのではないか。

(山崎) ゴールを明確にした授業で、生徒たちが向かう先が分かる授業であった。生物基礎としての学習内容のみならず、学校教育としての教育のあり方も垣間見えた。色を塗るのも工夫されていて面白い。自分の体のことであるが、この内容を文章で記述できて、日常生活にどのようにつながるかがあれば、より学習内容に対する興味・関心がわくのではないか。膨大な量の文章だったので暗記しようとすると日本語がおかしくなると思われる。しっかり理解してこそ日本語としても適切な表現につながる課題だと感じた。最後までペンを止めずに頑張っていた生徒たちの姿が印象的であった。

(照井) 生徒たちの活動は、ねらいがしっかりしていて、良いと思った。前に出る生徒や仲間と話す子がいて、様々な活動が見られた。一人の生徒もいて不安も感じたが、周りも手助けして安心した。自分もチャレンジしたいが、単発では反発で終わってしまうので、環境作りが必要だと感じた。とっかかりはどうすれば良いか?

⇒自分が話しても理解度は様々である。分かっている人1人では効率が悪いので、分かっている 人が動けば効率的で良いだろうと考えた。「7つの習慣」をもとに、集団で生活するための話しも する。①学力を上げよう。②人間性も高めよう。と話している。

(渋谷)単元なしの時、グループで進度が隣り合う人同士で自由進度の授業はやってみたことはある。話し合いによって、聞かれて分からないことが明確になるので良い。小テストは分からないところの確認のテストにする方法もあるのではないか。いろいろあると思う。 2割しかチェッ

クしていないが、待たないのか。

⇒間に合わないだろうとは思っていた。「全員」ということの意識付けが大事。最後の10分で残りの人はどうするの?というところは理想。中には動かない人もいるが、周りが気を利かせ始める。

(斎藤)『学び合い』の実践の中で今日が勉強になった。知識のみならず、生き方、人としてのあり方が身につくところを授業の中で目指していることが良い。7つの習慣と結びつくところがすごい。集団でないとできない授業であり、1時間中思考し続けるので、生徒としてもここに来ている意味を見いだせると思う。目標未達成の生徒にどうフォローするのか、という話題がよく上がるが、今回の授業では「一人で判断するな」という基準を設けていてよかった。板書の共有、スプレッドシートの活用、用語集・図説の配置なども学んだ。前時いなかった人は名前をあげてもいいのではないか。

ノートの活用について普段指導しているか?⇒プリント貼っておきなさい、くらい。学校に来る 意味は何なのか、を常々話している。

(伊藤主任指導主事) 熱心な協議会の様子で取り組みもよく勉強されている。とてもいい授業であった。時間を経るごとに良さが感じられるものであった。主体的・対話的で深い学びの最も難しいところ「教えすぎない」。時間との闘いではあるが、教える、という場面がなくてよかった。若手でよく見られる授業形態であるが、今後も引っ張っていってほしい。本時は仕掛けがいろいろあった。仕掛けとは演出である。答えを貼るのは展示ブース。

3 今後の課題等

(伊藤主任指導主事)もう一段上を見て、授業を研究してほしい。深い学びが難しい。深い学びをどう実現するかを研究してほしい。仕掛けについても、答えはない。あの空間をもっと楽しくするためのBGMなど、いくらでもある。映画のオープニングのような動画制作をさせるなど。熱心な協議ありがとうございました。

「高等学校講師等研修を終えて」

今川 萌

【はじめに】

3月下旬に校長先生からのお声がけの元、4月に初めて講師としてこの大曲高校に赴任した。慣れない環境の中で心優しく指導してくださる職員の方々、沢山話しかけてくれる生徒たちにとても助けられた1年間だった。新たに学ぶことの多い中で、その基本を以降に記す高等学校講師等研修で学んだ。この研修について振り返る。

【校外研修】

研修の内容は次に記載している4つの項目である。

- 1, 教育公務員の服務
- 2, 学校組織の一員として
- 3,「あきたのそこぢから」を活用した授業作り
- 4,人間関係づくりについて

以上の4つについて、そこに集まった全県の講師の仲間と共に考えを共有し、問題解決策などを話し合いながら活動を進めた。自分の中での考えで留まることなく、さまざまな意見を聞くことで自身の考えの幅が広がったため、非常に良い時間を過ごすことができた。

1の講座からは、当たり前ではあるが公務員としての在り方、職に従事する上で基本になることを改めて確認し、自覚と責任を心に留めることができた。2の講座からは、学校職員にかかわらず社会人として心がけておくべきこと、あるべき姿について学んだ。常に報告・連絡・相談を心がけて一人で悩まないで職員が一丸となって取り組む大切さを感じた。3の講座では、秋田県が独自に掲げている授業の基本を知り、さまざまな工夫が施されていることを知った。地域性にあった授業スタイルが確立されており、秋田県の教育への熱い想いを感じ取ることもできた。4の講座からは、生徒に限らず保護者の方への対応や、職員同士の関係性について考えることができた。生徒たちが安心して学校に来ることができるように、職員同士も良い関係であり、良い学校作りをしていくことが非常に大事だと思える講座だった。

また、各講座を講義してくださる先生方は、講座の内容に付け加えて、実例や先生方の経験談を踏まえて説明してくださった。これから私たちが経験するであろうことを、正しい対応と共に伝えてくださることで、

【おわり】

昨年度までは東京の一般企業で働いていたこともあり、教育実習以来の教育現場に、正直なところかなりの不安を抱いていた。しかし、そんな不安も払拭してくれたのはこの大曲高校である。講師として初めて赴任した先が大曲高校でよかったと1年経った今強く思っている。経験も知識もまだまだではあるが、それでも新たな課題を見いだす機会を多く与え経験させていただいた。この1年間での私の経験や悩みは、他の先生方に比べればほんの一部にしか過ぎないと思う。しかし、私にとってはどの場面を切り取っても今の自分に足りないことを吸収するための大切な経験だった。そう思わせる機会を与えてくれた生徒の存在に感謝すると共に、時間を割いて丁寧にご指導してくださった先生方や職員の方々、この研修でこれからの基盤を教えてくださったセンターの先生方には心の底から感謝申し上げます。ありがとうございました。

まだまだ学ぶことは沢山だが、この1年間の経験を踏まえ来年度以降私自身も学ぶことに貪欲に、 日々成長していくことができるよう精進していきたい。

令和5年度 商業科の取り組み

商業科 高 橋 晃

今年度の商業科の1年間の取り組みについて紹介します。

●全商1級検定3種目以上合格者 10名 5種目取得4名、4種目取得5名、3種目取得1名(今年度卒業生35名中)

●講習会

・日商簿記2級講習会(2/3、4)2年生10名参加 講師:仙台大原簿記情報公務員専門学校 税理士会計士学科 工藤 英一 氏

●大会出場

- ・全国高等学校ビジネス計算競技大会県予選(6/4)2年生1名参加
- ・秋田県高等学校ワープロ競技大会(5/27)2年生3名参加
- ・秋田県高等学校ワープロ新人競技大会(9/23)2年生3名参加
- ・東北六県高等学校ワープロ競技大会(10/28)2年生4名参加

●イベントの参加

- ・『大曲商工会議所まつり』(5/20) 3年生5名参加 大曲ヒカリオイベント広場で販売補助
- ・『初夏のパン&スイーツフェア』秋田ふるさと村 3年生5名参加
- ・『四ッ谷まつり』 (10/8) 3年生5名参加 商業科の先輩が考案したグレンさんのお菓子を完売
- ・『秋の稔りフェア (大仙市地域産業祭)』(10/21、22) 3年生参加 商品開発 (スイーツ) 斑、タオル斑、販売促進 (グレン) 斑
- ・『冬のパン&スイーツまつり』 (12月、2月) 秋田ふるさと村 3年生および2年生





●商業科としての取り組み

○商業科集会(4月、12月)

3年生が会を運営し、実際に体験・工夫したことを $1 \cdot 2$ 年生にアドバイスし、商業科での学習に対する不安を取り除き、 $1 \cdot 2$ 年生が今後の学校生活や進路実現に向けて意欲的に頑張っていこうとする気持ちを持たせることを目的に実施した。

○3年生課題研究、課題研究発表会(1月)

地域企業と連携し、地域活性化活動や商業科のPR活動を6班に分かれて活動した。商品開発では、地元産のイチゴジャムを使用した洋菓子をグレンさんと共同開発し販売した。また、大曲高校オリジナルタオルの制作にも取り組み、学校祭や各種イベントで販売を行った。地域PR斑は今年度初めて、「ラインスタンプを使って地元をPRする」というテーマで作品を完成させた。メインキャラクターには商業科の先輩が考案した「でんたクマ」を採用し、大仙市の観光名所やイベント、特産品を取り上げ、各種団体に生徒自らが承諾を得て、作品を仕上げた。7月の体験入学で商業科PR班が中学生の前でスライドを用いての商業科紹介を行うことができた。また、タオル斑の一部は大曲中学校にて出前授業を行い、商業科の基礎となる簿記の授業を行った。地域課題に取り組む斑ではSDGsに着目し、児童の体力向上のため体を動かす遊びを考案し、学童クラブで数回にわたり活動して、運動の楽しさを児童に伝えた。

昨年度からの活動である大曲商工会議所主催『ものづくり企業紹介動画』制作のリポーター役に今年も2名が協力した。大山市役所、大曲商工会議所の方々や、グレンさん、toitoitoi さんなど多くの地域の方々と交流し協力して頂いたことは、生徒にとってはもちろん私たち教員にとっても実学を学ぶたいへん貴重な体験となった。来年度も更に地域との交流を深め充実した活動ができるようにしていきたい。